

正しいことを実
行しましょう。
皆で。



当社の規範

ジョンソン・マッセイの行動規範は、当社が正しいことを実行するための礎です。

倫理に則り、責任を持って、分け隔てなく仕事をするための指針であり、当社の資産を保護するにはどうすればよいかを示します。また、社員が互いを気にかけて、全ての業務にサステナビリティが組み込まれるよう導きます。

規範では、望ましい言動とはどういうものかを示し、倫理に則った判断を助けます。この規範はJM社員に限らず、サプライヤー、顧客、ビジネスパートナー、エージェント、投資家などの関係者をはじめ、より広範な社外の人々にとっても重要です。

この規範の助けを借りて、正しいことを実行しましょう。皆で。



当社の公約 –

正しいことを実行する
とは



理解しましょう –

規範を意思決定に
反映させるには



助けを求めましょう

– どうすべきか
迷っていますか？



率直に意見を 述べましょう

– 深刻な懸念が
ありますか？

次のページ
またはセク
ションへは、
このバーの
ボタンから

自分の役割を果たす

正しいことを実行する—これは、全ての業務の土台です。社員は全員、職務を問わず、倫理的な言動をし、正しい判断を下し、自分のしたことに対して責任を取らなければなりません。

倫理に則った社風は、社員の自尊心と、会社に対する誇りを培います。それが会社をより強靱にします。そうなるこそ、我々は継続的な成功を収めることができるのです。

Liam Condon
最高経営責任者



当社の社風の基盤となる価値観

当社の行動規範に従うことで、当社の価値観に沿った言動ができます。

当社の業務のあり方は、当社の価値観に左右され、またその価値観には、当社の業務の最良のあり方が反映されています。

これらの価値観は、ジョンソン・マッセイの社風の基盤であり、社の重要事項を決定するよすがとなっています。



筋の通った行動

正しいことを、言葉と行動で実行する。誰も見ていなくても正直かつ公平で、良識のある言動をする。



人と地球を守る

健康と安全に関する最も厳しい基準に従い、心身の健康を促進し、地球を守ります。



共に働く

社内外での協働を奨励し、様々な考え方を受け入れ、他者に対して尊敬といたわりをもって接します。



革新と改善

新しい考え方を取り入れて自分のものとし、変化に自信をもってしなやかに対応し、市場をリードします。



自分の言動に責任を持つ

自分の仕事に責任を持ち、自分自身と同僚に厳しい基準を課します。

行動規範の遵守

行動規範の遵守は、当社の価値観を支えます。
社員が働きたいと思える職場をつくり、仕事のために
重要な日々の原則をしっかりと理解しましょう

当社は以下を誓約します。

各公約の詳細を見るには、アイコンにカーソルを合わせてください。

行動規範を意思決定の指針とする

倫理に則った正しい判断をすることは、JMでの仕事にとって重要です。当社の意思決定ツールは、難しい判断に直面した時の指針となります。



正しい判断をする

JMでは、社員一人一人が正しい判断をすることを期待されています。

しかし時には、何が正しいのかが不明瞭で、難しい判断を迫られることがあるかもしれません。そんな時は立ち止まり、問題を整理して、当社の意思決定ツールを利用しましょう（8ページを参照）。それでも自信が持てない時は、助けを求めましょう。

難しい判断を一人で、あるいはサポートもなしに下す必要はありません。

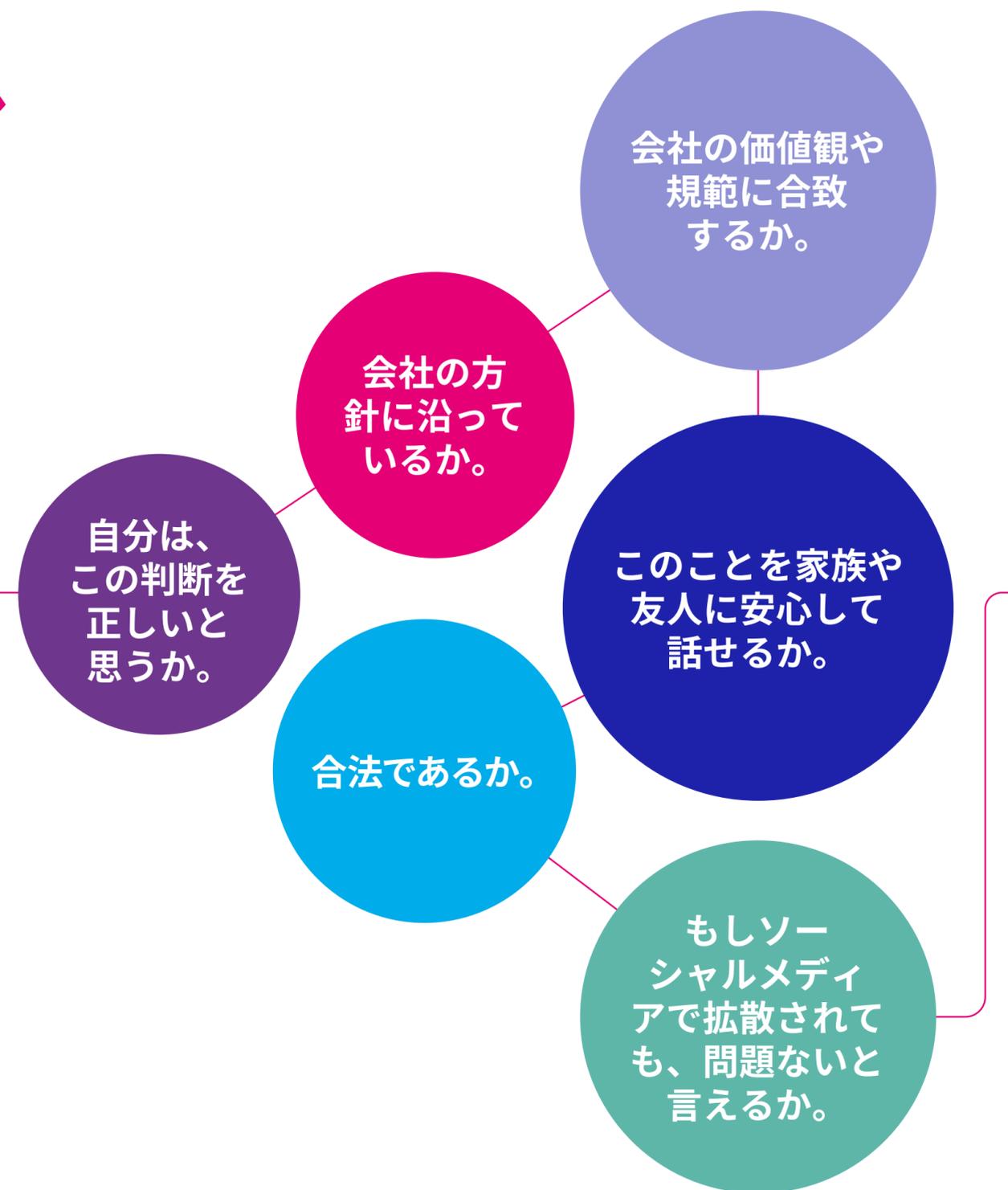


当社は毎年 **倫理規範のオンライン研修**を行い、倫理に則った正しい判断をするための力と知識と自信を培っています。Eメールで通知が来たら、必ず研修を修了してください。

意思決定ツール

当社の意思決定ツールは、
難しい判断を迫られた人を
サポートするためのもの
です。

あなたが直面している倫理上
のジレンマや、下さなければ
ならない判断をよく考えてみ
ましょう。その上で、以下の
質問に答えます。



善良な人々が、間違っ たことをする理由

善良な人々も、様々な理由で間違っ
たことをするかもしれ
ません。

詳細を見るには、以下の各理由にカーソルを合わせてく
ださい。



誰かが正しくないことをするのを見たら、注意を喚起するか、当社の様々なルートで率直に意見を述べてください。それに対する報復などは許されません。

助けを求め、 懸念を伝える

もし、正しくないと思われることを見聞きしたら、あるいはあなた自身が間違いを犯したら、黙っているよりも助けを求めたほうが良いのです。

助けを求める方法は幾つかあります。



その方法とは、



上司に相談する

わからないことがあったり、アドバイスが必要だったり、懸念を伝える必要がある場合、まず直属の上司に相談してみましょう。直属の上司に話しにくければ、他のマネージャーやチームリーダーに相談してください。



倫理アンバサダーに連絡を取る

当社の倫理アンバサダーは、社員を正しい方向に導き、行動規範や倫理的な行動についての質問に答える役目を担っています。あなたの支社のアンバサダーを見つけるには、myJMで「倫理アンバサダー」を検索してください。



人事部または法務部に相談する

人事部や法務部に直接、質問や懸念を伝えたり、アドバイスを求めることができます。



率直に意見を述べる

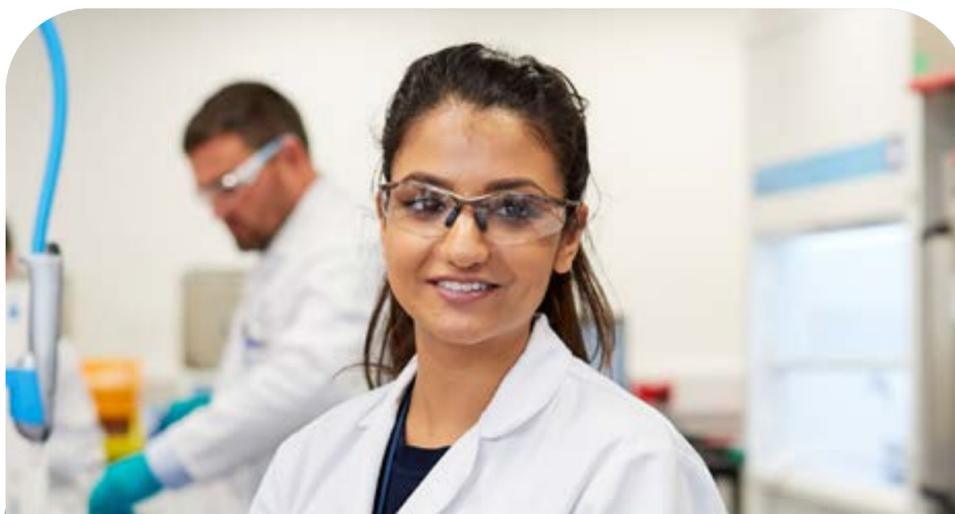
深刻な懸念は、「スピークアップ・ライン」を通じて伝えてください。詳細は1ページの第4項を参照してください。

倫理アンバサダーのネットワークに連絡しましょう

世界各地に倫理アンバサダーがおり、そのネットワークが確立されています。倫理アンバサダーは様々な部署の社員で、行動規範を全社に浸透させるため、ボランティアで時間を割いています。

倫理に関する質問や懸念があれば、あなたの支社の倫理アンバサダーに連絡してください。役に立つ資料をくれたり、懸念を上層部に上げる必要がある場合、誰に連絡すればよいかを教えてください。

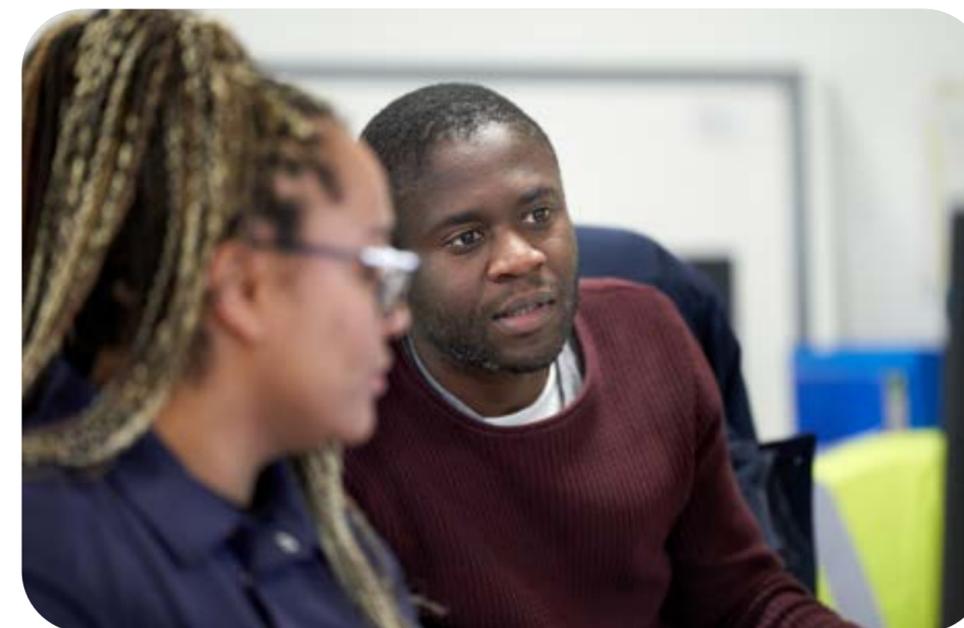
ほとんどの支社に倫理アンバサダーがいます。あなたの支社のアンバサダーを見つけるには、myJMで「倫理アンバサダー」を検索してください。



「100人を超える倫理アンバサダーのおかげで、支社のことがよくわかります。倫理に則った言動について、また正しいことを実行するにあたって、疑問や懸念を感じたら、私達に連絡してください。」

知っていますか？

同僚との関係や雇用環境についての懸念を感じたら、**共働方針**のアドバイスや指針を参考にしてください。



管理職の人々へ

管理職の人々は特に、倫理に則った言動を奨励し、部下が正しいことを実行するよう監督する責任があります。

管理職に期待されるのは、

- 行動規範を常に実践し、当社の価値観を体現する手本となること
- 行動規範を逸脱した部下には責任を取らせること
- 正しいことを実行するとはどういうことか、常日頃から実例を挙げてチームに説明すること。
- 話しにくいことから逃げない。
- いつでも部下の話聞き、アドバイスができるようにする。
- 部下が安心して懸念を伝えられるような雰囲気をつくる。
- 報復は絶対に許さない姿勢を見せる。
- 部下が全員、毎年の倫理規範研修を修了するよう気をつける。



深刻な懸念は、率直に伝えましょう。

時には安全でなかったり、倫理に反したり、違法であったり、行動規範の精神や当社の方針・業務規定にもとる言動を見聞きすることがあるかもしれません。

そんな時は、率直に意見を述べてください。



どうすればよいか

深刻な懸念を伝える必要がある場合は、まず直属の上司に相談することをお勧めします。しかし、それが難しい場合があることも理解しています。そのような場合のために設置したのが「スピークアップ・ライン」です。これは当社とは関係のない、独立した電話およびオンラインのサービスで、秘密は厳守されます。

どうすればよいか

懸念を伝えるには、speakup.matthey.comからアクセスできる「スピークアップ・ライン」を利用するか、以下のQRコードをスキャンしてください。



先延ばしにしないでください。

懸念を伝えるのが早いほど、問題の解決も迅速になります。何か問題が起きるまで待ったり、他の人が意見を述べるのを当てにするのはやめましょう。

あなたの懸念には、迅速に、かつ徹底的に対応します。



秘密厳守と匿名の保証

あなたの情報は、極秘事項として扱われます。場合によっては、公に懸念を表明したくないこともあるでしょう。ですから、法的に許される場合、匿名で懸念を表明することができます。

報復は絶対に許されません

安心して、率直な意見を述べてください。当社は、声を上げる社員を守ります。率直に意見を述べた社員が報復されたという報告は、非常に重大に受け止めます。報復があったことが証明されれば、解雇を含む懲戒処分を行います。



率直に意見を述べることは、難しい時もありますが、それが正しいことなのです。



誰もが「スピークアップ」を利用することができます。JM社員であれ、ビジネスパートナーであれ、サプライヤー、顧客、エージェントなど、バリューチェーンのどのメンバーであれ、誰もが声を上げることができるのです。



「スピークアップ」の仕組みについては、当社のスピークアップに関する方針と指針を参照してください。

正しいことを実行しましょう。
皆で。